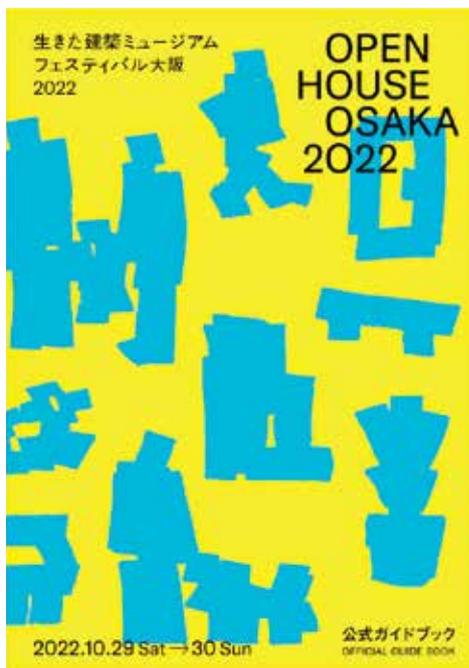


# 関西大学千里山キャンパスの「イケフェス大阪」への参加

橋 寺 知 子

「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」という催しをご存知だろうか。大阪は、大阪のまちを一つの大きなミュージアムと捉え、そこに存在する「生きた建築」を通して見えてくる、多様で豊かな都市の物語性を大阪の新しい魅力として創造・発信しようとする「生きた建築ミュージアム事業」に取り組み、普段はめったに入ることができない建築を所有者等の協力により2日間限定で公開するという催し、通称「イケフェス大阪」を2014年から毎年10月末に開催している<sup>1)</sup>。2016年からは生きた建築ミュージアム大阪実行委員会の主催となり、大阪市近郊の建物もいくつか加わり、関西大学千里山キャンパスも同年から参加している。コロナ前のイケフェス大阪2019には、169の施設が参加し、建物公開やツアー、トークイベントなど計233プログラムが実施された。延べ約5万人が集まる日本最大級の建築イベントである。



このような催しは、1992年にロンドンで始まった Open House London が先駆けであり、現在では世界中の都市で開催されている。これら



をネットワーク化し、企画・運営のノウハウや課題の共有を行うことを目的に、2010年、Open House Worldwide という組織が設立され、50以上の都市が加盟している<sup>2)</sup>。大阪は2019年に加わり、日本で唯一の参加都市である。

コロナ禍の2020年・2021年は、イケフェス大阪はバーチャル開催となり、さまざまな web コンテンツが提供され、建築設計事務所や実行委員会がこのために制作した動画など、こんな時だから見られたもの、聞いた話もあった。だが、この催しは実際に訪れ空間を体験することで、建物の魅力に触れるのが本旨である。3年ぶりのリアル開催となった2022年は、主催者も参加者も案内人も、久しぶりのお祭りの雰囲気を味わった。

関西大学千里山キャンパスは、普段からある程度公開されている施設で、「めったに入れない施設」ではないのだが、それでもキャンパスツアーには多くの申込があり、いつも抽選になる。大学関係者や近隣の方以外には、意外と大学の構内は入りづらいのかもしれない。千里山キャンパスのツアーは、イケフェス直前の平日午後で開催している。イケフェスは、原則土・日2日間の開催だが、その期間に北摂に足を延ばすと、参加建物が集中する大阪市内の見学に影響するからだ<sup>3)</sup>。ツアーには毎回テーマを設け、2時間程度のコースを計画する<sup>4)</sup>。2022年は10月27日遅めの午後の開催で、簡文館（博物

館) 見学から始め、誠之館、第4学舎、円神館と、キャンパス中央部を時計回りに巡り、夕闇迫る頃、2022年の大学昇格100年に合わせてリニューアルされ、ムードあるライトアップが印象的な総合図書館前の庭を見学して解散、というコースとした。

イケフェス大阪に参加する建築に興味がある人々にとって、関西大学千里山キャンパスの魅力は、やはり村野藤吾設計の建築が多くまとまって現存している、という点にある。このことはさまざまな機会に広報されていると思っているが、参加者からは「こんなに多くあるとは思っていなかった、意外だった」との感想が聞かれる。関大OB・OGの参加もあるが、「村野とは知らずに使っていた」と言われることも多いし、卒業後のキャンパスの劇的変化に驚かれる。もう一つの魅力は、ここが現役の大学キャンパスで、学生たちが学び、クラブ活動にうちこんでいる場であることだろう。生きたキャンパスであり続けるには、今のニーズに応えることが不可欠で、歴史的な建物があると同時に、新しい空間、魅力も望まれる。イケフェスの参加建物は歴史的建造物だけでなく、今注目の新建築や建設現場の見学会、それらを設計する建築設計事務所の見学なども好評である。本学のツアーでも、村野建築だけでなく、近年のキャンパス整備の取り組みも紹介している。

古建築と比べ、20世紀の建築遺産は少々軽く扱われ、遺産というより単なる財産として消費



されることもあるが、その価値が低いということではないだろう。ICOMOS 20世紀遺産国際専門委員会 (ISC20C)<sup>5)</sup> は、Living Heritage (生きた遺産) という概念を示し、古建築と同様に20世紀の建築遺産の価値を尊重する「使いながらの保存」を提唱する。改修を重ねながら進化するキャンパスは、建築遺産としても興味深い。歴史ある大学では、直接的にその歴史が感じられる校舎やキャンパスの景観を大事にし、自校教育やブランディングに役立てているところも多い。関西大学千里山キャンパスも100年の時を刻んできた。その歴史は、建物に限らず立地条件や地形にも感じられる。リビング・ヘリテージとして、今後も千里山キャンパスが学生を育むと同時に、幅広い人々が楽しみながら使える場であり続けられればと思う。イケフェスのような催しはそのきっかけを提供する機会となるだろう。

#### 注

- 1) <https://ikenchiku.jp/>
- 2) <https://www.openhouseworldwide.org/>
- 3) 参加建物は事前申込のものもあるが、当日先着順で見学できる所も多い。近代建築や建築設計事務所が多い大阪中心部では、イケフェス・ガイドブックを手に、建物を巡る参加者を多く目にする2日間である。
- 4) これまでのイケフェスでは、「一高一中ツアー」や「千里庵で茶道体験」、「村野の階段を巡るツアー」など、関係者の協力を得ながら実施してきた。
- 5) International Scientific Committee on Twentieth Century Heritage : ICOMOS (国際記念物遺跡会議) の国際専門委員会の一つ。2011年に20世紀建築の保存への取り組み手法に関する共通見解としてマドリッド・ドキュメントを起草し、改訂を重ね、2017年には第3版が承認された(マドリッド-ニューデリー・ドキュメント)。

関西大学環境都市工学部准教授

